

# 「胸腔ドレナージパス」

患者さんには、クリニカルパスに基づいた医療をおこないます。

※気胸で入院しても手術を行う場合と、行わない場合があります。

説明年月日： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

	入院日 (月 日)	手術をする場合				ドレーン抜去まで (月 日～月 日)	退院日 (月 日)
		手術前日 (月 日)	当日、手術前 (月 日)	手術後 (月 日)	手術翌日 (月 日)		
食事	・普通食	・普通食	・食事や水分を摂ってもよい時間は、麻酔科医の指示に従ってください	・朝食から開始します	・朝食から開始します	普通食	
内服	・薬剤師が、持参薬を確認します	・通常のお薬を服用してください	・朝、医師が指定した薬のみ服用してください	・服用する薬はありません	・内服薬を開始します(痛み止め、痰を出しやすくするお薬)	・痛みがある場合は、ナースコールでお知らせください。頓服で痛み止めをお渡します	・指示されたお薬をお飲みください
処置	・身長、体重測定 * 胸に管が入ります				・創部の消毒 ・朝、尿の管を抜きます	・創部の状態に応じ処置をします	・傷に貼っているフィルムを剥がします
運動	・制限はありません	・胸に管が入っていますが移動はできます 看護師に声をおかけください		・ベッド上安静	・朝から歩行できます		・制限はありません
検査	・採血・心電図 ・ドレーン挿入後レントゲン ・CT (持続吸引器持参)			・採血・胸のレントゲン	・胸のレントゲン ・採血(必要時) 検査を行う時は前日にお知らせします	レントゲン	・レントゲンの結果で肺の膨らみが前日と変わらなければ退院となります
点滴			・手術時間によって点滴を行う場合があります	・点滴があります			
入浴	・胸の管が入っている間は下半身のみシャワー浴ができます	・胸の管が入っている間は、下半身のみシャワー浴ができます		・体を拭き替えます		・胸の管が入っている間は、下半身のみシャワー浴ができます ・管が抜けた1日後から、全身のシャワー浴ができます	
説明	・患者識別バンドを装着します <看護師> ・入院生活についての説明 ・入院までの生活情報をお聞きます ・胸の管の取り扱いについて説明します ・痛みが強い時は、鎮痛剤が使用できますので遠慮せずにお知らせください	<麻酔科医師> ・診察し、麻酔の同意書を作成します。手術開始時間が決定します  <担当医師> ・手術説明 <看護師> ・手術前後の説明 <手術に必要な物品> ・コップ、ストロー又は吸い飲み	・術前のパンフレットを再度お読みください ・手術室へは、手術着で行きます。看護師がお渡ししますので朝替えます。  ・痛い時には、痛み止めが使えますので、遠慮せずにお知らせください ・痛み止めのチューブが背中側に入っています	・早期回復のため、歩くようにしましょう ・手術後、初めて歩く時は、看護師が付き添います	・レントゲンで肺の膨らみが十分と医師が判断したら、鉗子で胸の管を止めます。翌日のレントゲンで肺の縮みがないと確認できれば、管を抜きます * 呼吸が苦しくなったら、すぐにお知らせください  痛みは手術後2日目位をピークに徐々に軽減していきます。管が抜けるとかなり楽になりますが、手術時、肋骨周囲の神経に触れる影響で脇腹にピリピリした感じが続く場合があります。湿布をしたり暖めたりすることで緩和できますが、症状が続くこともあります。ご理解ください。	・次の外来受診、内服薬について、看護師や薬剤師が説明に伺います  《退院後の注意点》 ・痛みが急激に強くなったとき、発熱・息苦しさを感じたとき、傷口に異常があるときは、次の外来日前でも受診をしましょう ・次の外来日までに旅行や激しい運動を考えている方は、先生に相談してください ・禁煙は、退院後も続けましょう。飲酒も次の外来日までは控えてください ・風邪予防のために、手洗い・うがいを心がけてください ・内服薬は用量・用法を守りましょう ・次回外来日までは、入浴はせずシャワー浴としてください	

患者さんの状態により、スケジュール内容が多少異なる場合があります。経過についてはその都度個別にご説明致します。